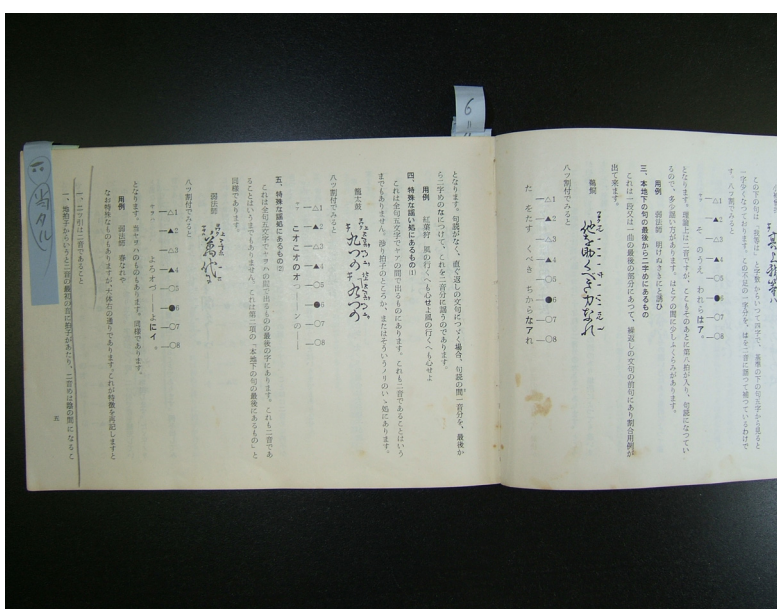
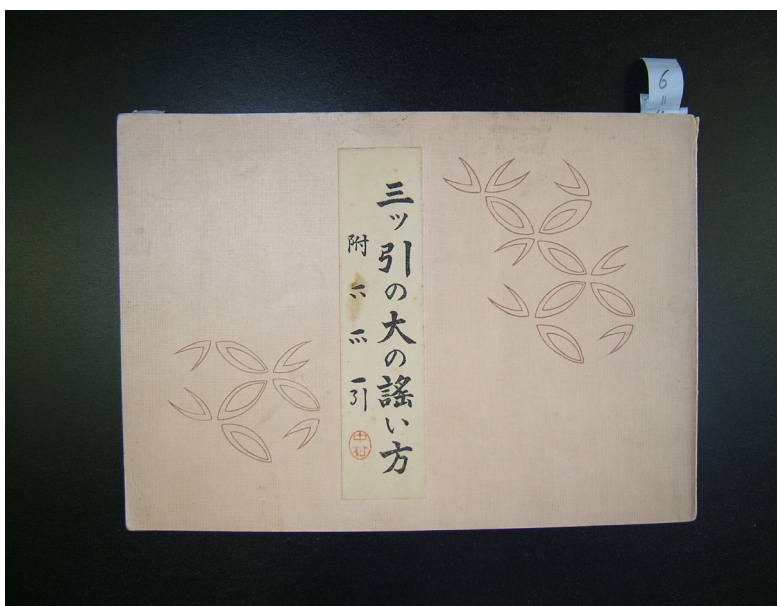


佐藤芳彦 『地拍子叢書第三篇 三ツ引の大的謡い方』

平ノリの「三ツ引」は引き方の規則が複雑である。それを体系的に解剖する試み。まず、「三ツ引」が、一、三、五、七拍を越すところに付けられるという原則が発見される。奇数拍は本来の近古式当りでは文字がくる拍である。そのこととの関連が付けられた点が意義深い。「三ツ引大」については、六字の本間謡い出し等、例外的と見られてきた句に規則的に出現していることが明らかにされる。増節にも配慮をしつつ地拍子を考えるのは、安間哲郎（74頁）以来の宝生流らしい伝統であると言えよう。



標題 内題：―

標題紙：―

奥 附：地拍子叢書第三篇 三ツ引の大

の謡い方

その他：地拍子叢書第三篇 三ツ引の大

の謡い方（目次）、三ツ引の大

謡い方 附 (題簽)

著者 奥 附：佐藤芳彦

その他の場所：―

出版 版次：第一版

出版地：東京

出版社：わんや書店

出版年：昭和35 (1960)

その他の場所：―

形態 冊数：一冊 頁数：一〇三頁

寸法：15×21 (cm)

状態 写本版本の別：版本 現物複写の別：現物

備考 宝生九郎校閲。